

1 学校質問紙から 授業改善の取組状況

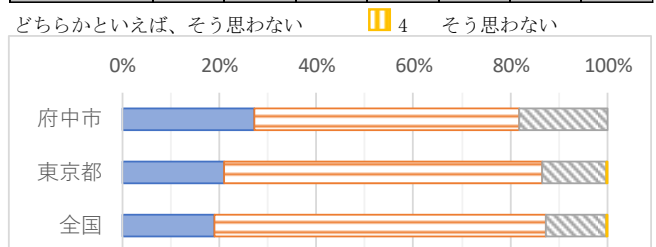
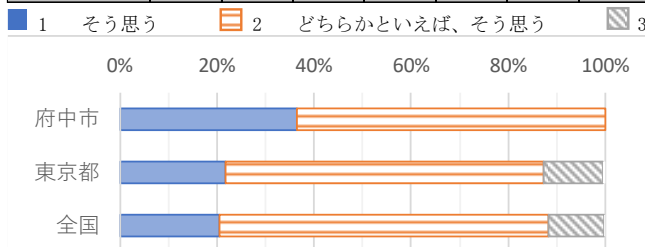
調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

設問項目 小学校 26 中学校 26

[授業改善の視点]

小学校							
選択肢	1	2	3	4			他・無回答
府中市	36.4	63.6	0.0	0.0			0.0
東京都	21.7	65.6	12.2	0.5			0.0
全国	20.4	67.7	11.5	0.3			0.0

中学校							
選択肢	1	2	3	4			他・無回答
府中市	27.3	54.5	18.2	0.0			0.0
東京都	21.0	65.3	13.0	0.3			0.0
全国	19.1	68.1	12.4	0.3			0.0



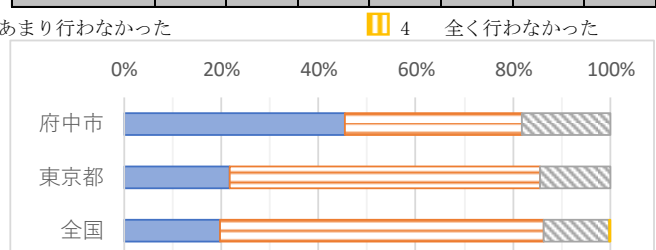
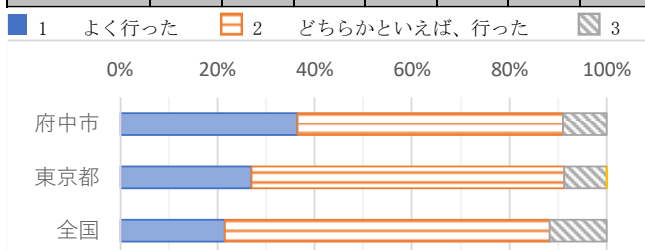
調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

設問項目 小学校 34 中学校 34

[授業改善の視点]

小学校							
選択肢	1	2	3	4			他・無回答
府中市	36.4	54.5	9.1	0.0			0.0
東京都	26.9	64.4	8.6	0.1			0.0
全国	21.4	66.7	11.7	0.0			0.0

中学校							
選択肢	1	2	3	4			他・無回答
府中市	45.5	36.4	18.2	0.0			0.0
東京都	21.7	63.4	14.4	0.0			0.0
全国	19.7	66.4	13.6	0.2			0.0



児童・生徒が自ら課題を設定し、学習方法を選択・調整しながら学ぶことについては、肯定的な回答が多く、主体的に学ぶ態度が育成されていることが伺える。また、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善・工夫についても、小・中学校とも取組が進められている。一方、学校によって取組状況に差が見られると考えられる。

今後は、各学校が、知識及び技能の習得にとどまらず、それらを活用して課題を解決し、さらに探究へとつなげる学習過程を明確にした授業づくりを一層推進する必要がある。そのために、成果を上げている学校の実践を共有し、指導方法の改善・工夫を市内各校へ広げることで、取組の底上げを図ることが重要である。

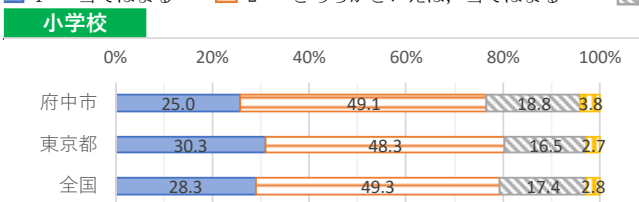
また、児童・生徒が課題を見だし、解決の見通しをもって学習方法を選択・決定できる場面を意図的に設定するとともに、対話や振り返りを通して学びを調整し、深める授業改善を進め、主体的に学習に取り組む力を育成することが重要である。

2 児童・生徒質問紙から (1)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組状況

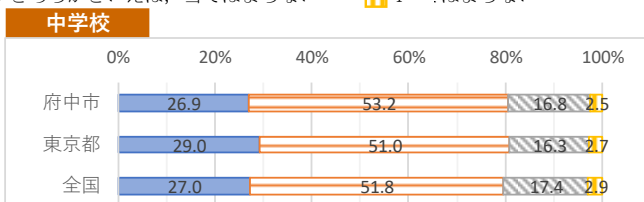
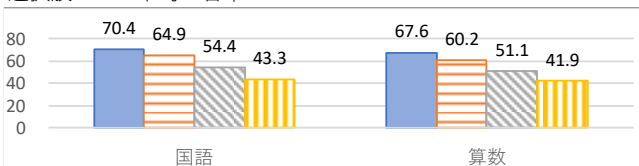
5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

設問項目 小学校 39 中学校 39 【主体的な学び】

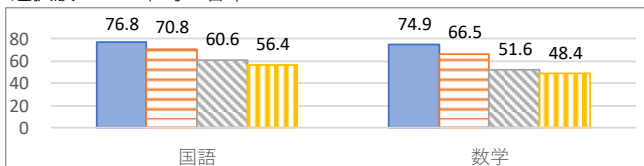
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



選択肢ごとの平均正答率



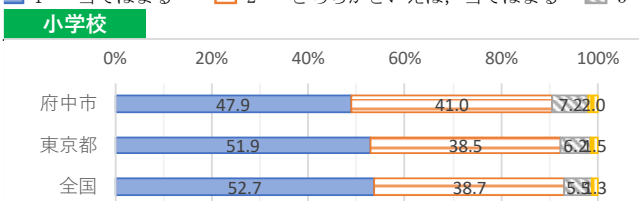
選択肢ごとの平均正答率



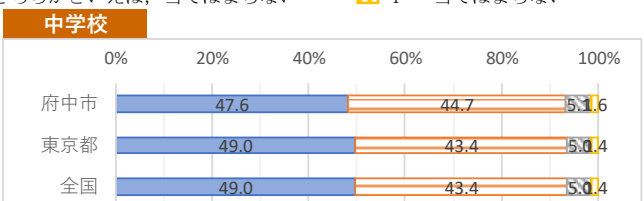
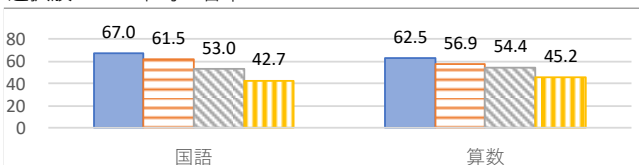
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

設問項目 小学校 46 中学校 46 【協働的な学び】

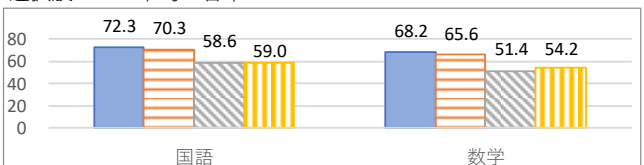
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



選択肢ごとの平均正答率



選択肢ごとの平均正答率



府中市では、友達や周囲の人の考えを大切にしながら協力して課題解決に取り組むと回答した児童・生徒が9割前後に達しており、協働的な学びに向かう態度が育成されている。また、話し合いを通して自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりできていると回答する割合も高く、他者との対話を通して学ぶ土壌が形成されている。

国の分析では、協働的な学びを肯定的に捉えている児童・生徒ほど、主体性や問題解決への意識、自己効力感も高い傾向が示されている。府中市においても、他者との関わりを通して学ぶ経験が積み重ねられ、学びの基盤となる人間関係づくりや学級づくりが一定の成果を上げていると考えられる。

今後は、話し合うこと自体を目的とするのではなく、対話を通して考えを見直したり再構成したりする活動を重視し、思考の深化につながる協働的な学びをより一層充実させる必要がある。

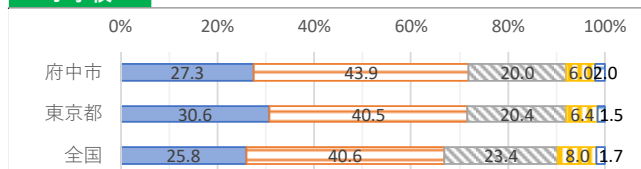
2 児童・生徒質問紙から (2)思考力・判断力・表現力の育成

5年生までに（1，2年生のときに）受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

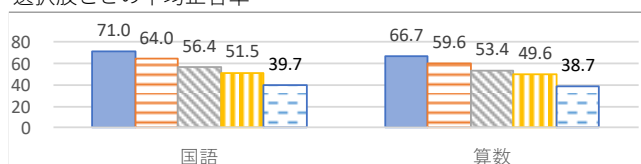
設問項目 小学校 (38) 中学校 (38)

- 1 発表していた 2 どちらかといえば、発表していた 3 どちらかといえば、発表していなかった
4 発表していなかった 5 考えを発表する機会はなかった

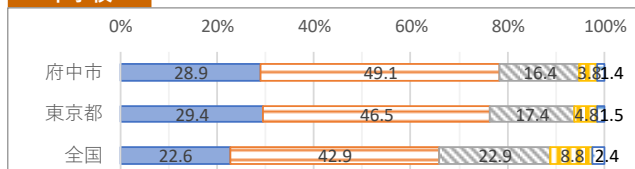
小学校



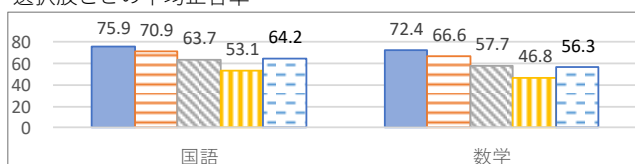
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率

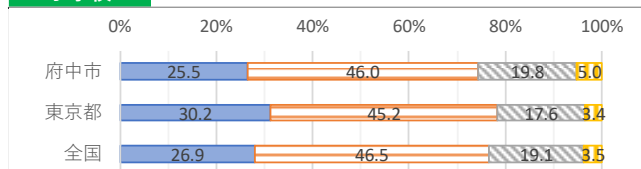


5年生まで（1，2年生のときに）受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

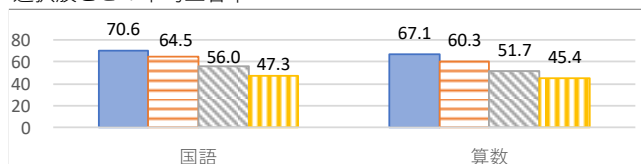
設問項目 小学校 (40) 中学校 (40)

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

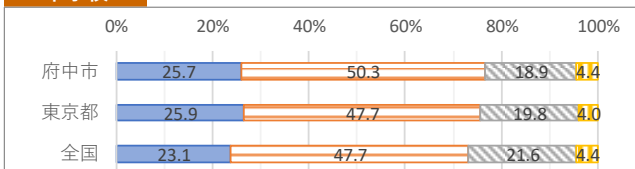
小学校



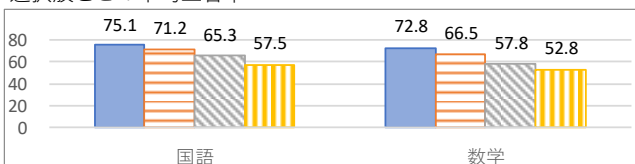
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率



府中市では、自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答する児童・生徒が多く、表現活動を重視した授業改善が各学校で進められていることがうかがえる。

また、教科に関する調査においても、小学校国語の資料活用、中学校国語の推敲や改善、中学校英語の作文等において良好な結果が見られており、学校での取組が学力面にも反映されていると考えられる。

一方、教科に関する調査では、「自分の考えをもつこと」「理由や根拠を基に説明すること」「考えを書いてまとめること」に課題が見られた。今後は、単に発表させるのではなく、根拠に基づいて考えを形成し、相手を意識して伝える学習活動を計画的に取り入れるなど、授業改善を進めることが重要である。

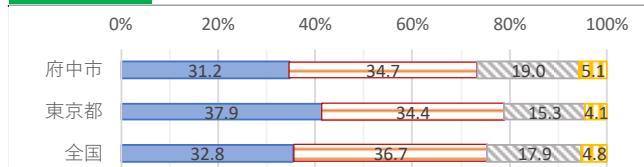
2 児童・生徒質問紙から (3)ICTを活用した学習

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか

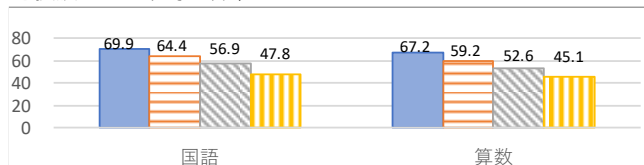
設問項目 小学校（36-3） 中学校（36-3）

1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない

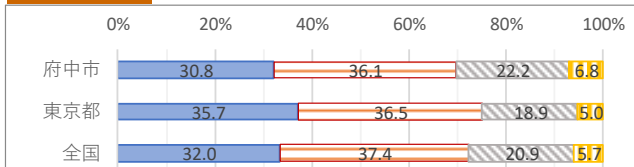
小学校



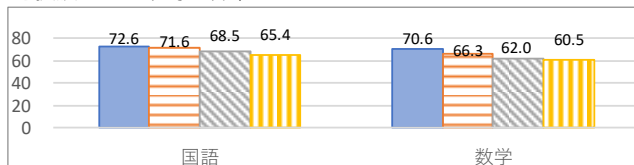
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率

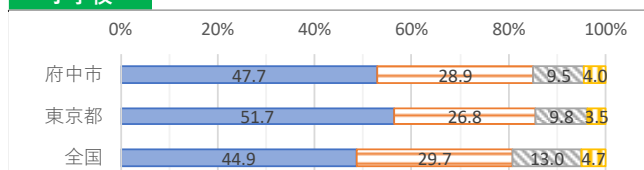


あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか

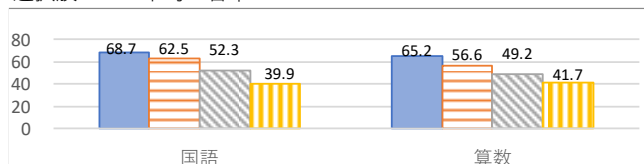
設問項目 小学校（36-4） 中学校（36-4）

1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない

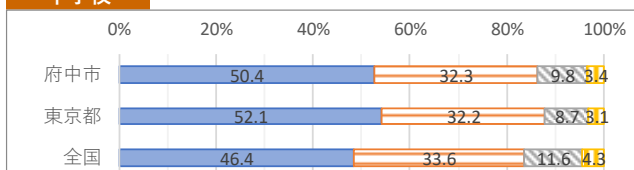
小学校



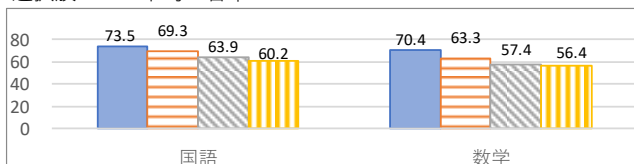
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率



府中市では、図・表・グラフや思考ツールを用いて情報を整理することができる、及びICTを活用してプレゼンテーションを作成できると回答した児童・生徒は、小・中学校とも一定の水準を保っており、おおむね情報活用能力が身に付いていると考えられる。また、ICT活用能力が高い児童・生徒ほど、国語や算数・数学の正答率が高い傾向にある。

今後は、スライド作成などの操作技能にとどまらず、目的に応じて情報を収集・整理・比較・関連付け、考えを分かりやすく表現する学習活動を充実させることが重要である。そのためにも、各教科において、ICTを思考・表現ツールの一つとして日常的に活用し、情報活用能力を計画的に育成することが重要である。

2 児童・生徒質問紙から (4) ウェルビーイングの向上

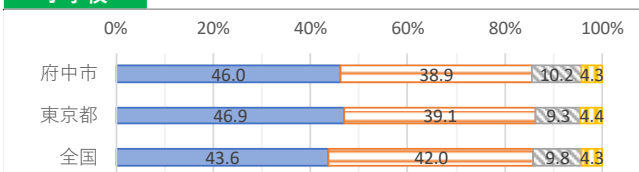
自分には、よいところがあると思いますか

設問項目 小学校 (8) 中学校 (8)

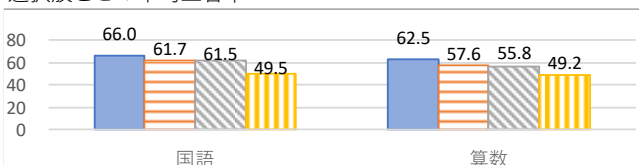
1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる

3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない

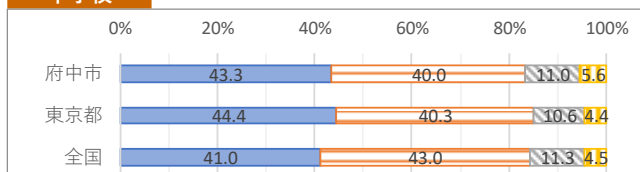
小学校



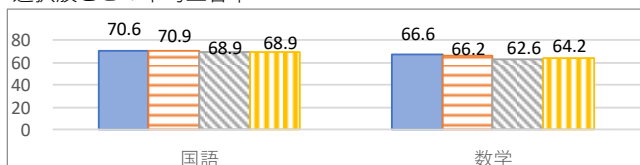
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率



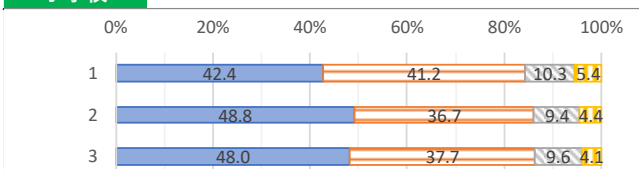
学校に行くのは楽しいと思いますか

設問項目 小学校 (15) 中学校 (15)

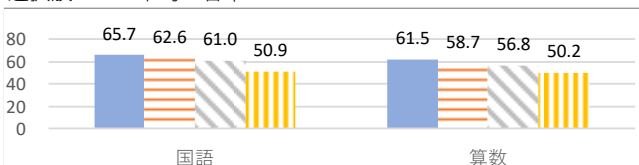
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる

3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

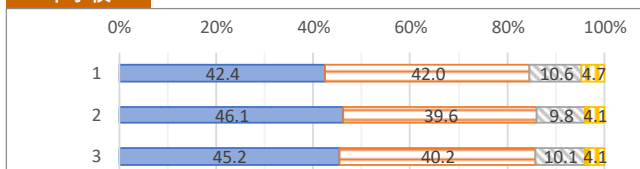
小学校



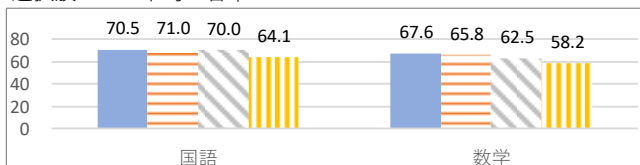
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率



府中市では、「学校に行くのが楽しい」「自分にはよいところがある」「友達関係に満足している」などの項目について、小・中学校ともに高い割合を示している。このことから、学校生活への満足感や自己肯定感、人間関係の安定が高い水準で保たれていることがうかがえる。

ウェルビーイングに関する項目に肯定的に回答している児童・生徒ほど、学力調査の国語や算数（数学）の正答率や中学校英語の I R T スコアも高い傾向が示されており、学力の向上は教科学習だけで実現するものではなく、安心して挑戦できる学習環境や良好な人間関係が基盤となることが改めて確認できる。

一方で、否定的な回答をしている児童・生徒も一定数存在しており、その背景には学習面や家庭環境、友人関係等様々な要因が考えられる。今後も学校全体で児童・生徒一人一人の状況を丁寧に把握し、早期から支援を行う体制を充実させる必要がある。

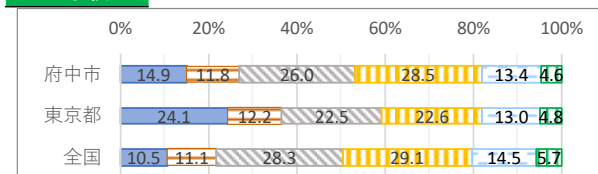
2 児童・生徒質問紙から (5) 家庭学習

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

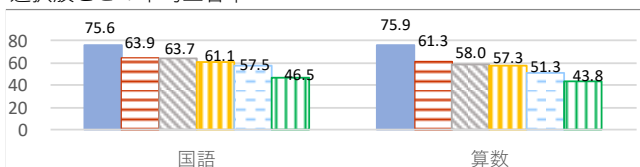
設問項目 小学校 (23) 中学校 (23)

1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない 4 30分以上、1時間より少ない
5 30分より少ない 6 全くしない

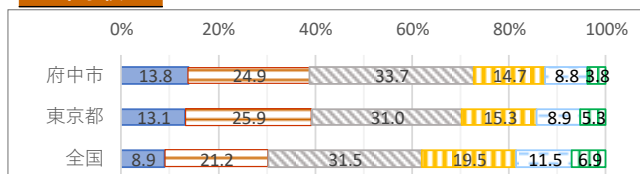
小学校



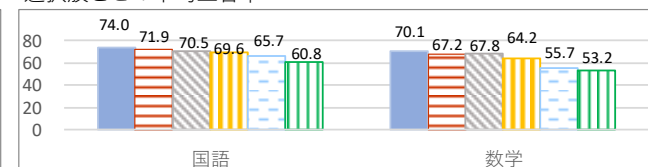
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率

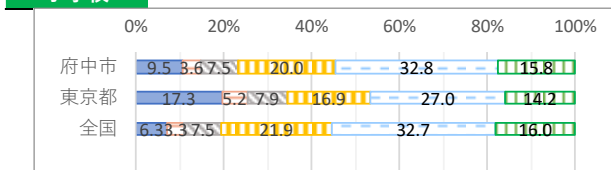


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

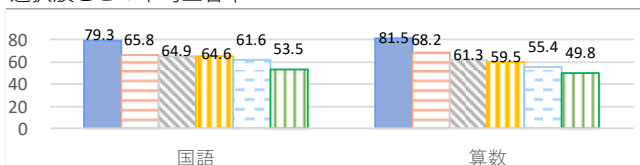
設問項目 小学校 (25) 中学校 (25)

1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない 4 1時間以上、2時間より少ない
5 1時間より少ない 6 全くしない

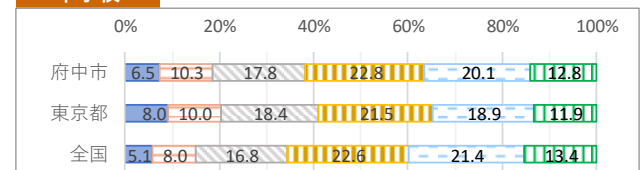
小学校



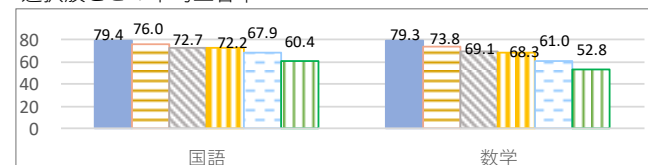
選択肢ごとの平均正答率



中学校



選択肢ごとの平均正答率



府中市では、平日の家庭学習時間について、小学校は東京都と比べて「1時間以上2時間未満」など中程度の学習時間が多い。中学校は東京都とおおむね同様の傾向である。休日は、小・中学校とも「全くしない」児童・生徒が1割以上見られる。一方、家庭学習の時間が長い児童・生徒ほど、国語や算数・数学の正答率が高い傾向にある。

今後は、学習時間の確保だけを求めるのではなく、家庭学習の質の向上を目指していく必要がある。知識・技能の定着を目指した反復学習だけでなく、ICT機器等を活用しながら、学校での学びと家庭での学びを関連付け、児童・生徒自身が、自分に合った学びに取り組むことが重要である。今後も、学校と家庭が連携し、継続的な学習習慣の定着を図る必要がある。